

○吉村善明議長 日程第17、一般質問を行います。

通告順に従い、順次発言を許可いたします。

まず、4番梶井憲子議員。

（4番 梶井憲子議員 登壇）

23○4番 梶井憲子議員 おはようございます。議長の許可を得まして、一般質問を行います。

本日は、二つのテーマについて質問をいたします。

通告の一つ目、市内バス路線の再編についてお聞きいたします。全国的に路線バス事業の経営悪化による路線の再編や廃止が問題となっております。生駒市においても、北部のバス路線の再編と廃止案が示され、各自治会に周知されて以来、市民の方から不安の声が多数届いております。路線バスは、特に高齢化が進む地域では住民の大切な足であります。免許証を返納された方や、交通弱者にとって減便や廃止は日常生活に支障を来す大きな問題となりかねません。今後も人口減少が進む中、公共交通事業についての将来の見通しが分からないという市民の不安を軽減するため、以下の質問をいたします。

- 1、生駒市内の各路線バスの利用状況について、市はどのように把握しているか。
 - 2、これからも進む人口減少に対して、公共交通をどのように維持していくのか、市の考えは。
- 続いて、通告書、二つ目のテーマです。生駒駅周辺の違法駐車についてお聞きいたします。

生駒駅周辺には駅を利用する方のほか、近隣の商業施設などへの送迎等のため、たくさんの一般車両がロータリー近辺に駐停車されています。車での路上待機は本来の走行の妨げになるほか、道路の見通しが悪くなるため、飛び出し等の事故につながることも懸念されます。生駒市では平成8年に違法駐車等防止条例が公布され、現在も生駒駅周辺は違法駐車等防止重点地域に指定されていますが、夕方以降は特にお迎えのために待機をされる車が多く、安全面を考慮すると、何らかの対策が必要と考えます。そこで、以下の質問をいたします。

1、違法駐車等防止条例が公布されてから、生駒駅周辺の交通環境の改善に向けてどのような取組をされましたでしょうか。

- 2、生駒警察とはどのような連携を取っておられますでしょうか。

登壇しての質問は以上です。2回目からは自席にて行います。

24○吉村善明議長 米田建設部長。

（米田尚起建設部長 登壇）

25○米田尚起建設部長 おはようございます。それでは、梶井議員のご質問、一つ目、市内バス路線の再編についてをお答えいたします。

まず、1点目のご質問、生駒市内の各路線バスの利用状況について、市はどのように把握しているのかについてですが、奈良交通株式会社から適宜利用状況等の情報をいただいております。

まず、県内の路線バス輸送人員については、平成2年をピークに下がり、平成27年から令和元年の間、海外からの訪日客の増加により下げ止まったものの、令和元年にはピーク時の半分近くまでに減少しております。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による市内路線バスの収入状況

では、令和元年度を 100 とすると、令和 2 年度は 71%、令和 3 年度は 76%、令和 4 年度上半期は 82%となっております。また、市内路線バスの収支状況は、経常収益と経常経費の差引きした損益で、令和元年度と令和 2 年度ともに約 1 億円余りの損失、令和 3 年度では約 9,000 万円の損失となっております。また、生駒ニュータウン線及びひかりが丘住宅線につきましては、けいはんな線開通の前後で比較しますと、平成 15 年と令和 3 年では約 40%の減少となっている状況と伺っております。

次に、2 点目のご質問、これからも進む人口減少に対して、公共交通をどのように維持していくのか、市の考えはについてですが、本市の公共交通サービスは、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーが整備され、市民の日常生活を支える移動手段として大きな役割を果たしております。しかしながら、早期に開発された郊外住宅地の高齢化が進み、また坂道の多い住環境でもあるため、高齢者にとってはバス停まで歩くことが困難で、市民の誰もが公共交通サービスを気軽に利用できる環境とは言えません。令和 3 年 3 月に策定した生駒市地域公共交通計画では、本市の目指すべき将来像として、自動車を保有していなくとも、市内の様々な場所で活動でき、また環境に優しいまちを目指し、自動車での移動に過度な依存をせず、持続可能な公共交通サービスで誰もが円滑に移動でき、市民の活動機会が保障されているまちとしております。その実現に向けては、一つ目として、公共交通サービスの提供による市民の活動機会の保障、二つ目として、まちづくりと連携した公共交通サービスの提供、三つ目として、市民、地元企業、行政等の協働による公共交通サービスの充実という三つの基本方針を定めております。これらの実現に向けては、まず高齢者等の外出機会の保障では、買物や通院、趣味、サークル活動等の活動時間に合わせた既存公共交通サービスの見直しや、デマンド型タクシー、近隣の助け合い輸送等の提供の検討を行うこと。また、市内の様々な場所で目的に応じた活動や交流ができるような公共交通サービス提供に向けて、地域の特性に応じた新たな公共交通サービス提供の検討や、新しい交通システム技術の活用等、より便利な公共交通サービス、地域のにぎわい創出に寄与するような公共交通サービスの充実について検討を行うこと。また、少子高齢化の進展や、生産年齢人口が減少する中、既存の公共交通サービスを持続的に維持するためには、行政や交通事業者だけではなく、市民や地元企業等、生駒市に関係する全ての方が一丸となり取り組むことが必要であり、そのため、市民等に公共交通に関する分かりやすい情報提供や公共交通を利用することのメリット等を発信することで本市の公共交通サービスを自分たちで支える、守る、利用するという意識を醸成し、需要を喚起するための施策を検討すること。また、地元企業等有する輸送資源の活用や利用促進に向けたタイアップ等を検証することなどを挙げております。

現在、少子高齢化の進展、コロナ禍、物価高騰等、公共交通を維持していく環境は全国的に非常に厳しいと認識しております。市としましては、公共交通事業は市民生活を支えるためになくてはならない重要な事業であることから、必要な助成については財源を踏まえて対応を検討していきたいと考えておりますが、市単独による継続的な支援には限界があることから、国において赤字が続くローカル線なども含めた地域の公共交通を維持するため、新制度の具体化に向けた議論が着手されたとの情報や、令和 5 年度概算要求では、地域交通の運行確保及び再構築に向けた支援を要求することなどの情報等があることから、今後も国の動向に注視していきたいと考えております。

以上、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

26○吉村善明議長 澤井危機管理監。

(澤井宏保危機管理監 登壇)

27○澤井宏保危機管理監 それでは、梶井議員の2問目のご質問、生駒駅周辺の路上駐車についてにつきまして答弁させていただきます。

違法駐車等防止条例が施行されてから、生駒駅周辺の交通環境の改善に向けてどのような取組を行ってきたのかについてですが、多くの市民が利用する生駒駅には、通勤、通学の送迎や駅前施設利用者などの多くの自動車の乗り入れがあります。平成9年の条例施行に伴い、近鉄生駒駅と東生駒駅周辺を違法駐車等防止重点地域に指定し、交通事故につながりかねない路上駐車への対策として、交通指導員による巡回指導を行っています。その後、違法に駐車場所として利用されていた生駒駅北側ロータリー周辺のゼブラゾーンを縮小するとともに、ロータリー内側に一般乗降場を設置し、タクシー乗り場を近鉄百貨店前へ移設したほか、近商ストア前交差点のゼブラゾーンにコーンを設置するなど、違法な駐車がしにくくなるよう、物理的な対策も講じてまいりました。また、これらに合わせて、ホームページやツイッターなどで駅周辺において違法駐車をしないよう地道に啓発を続けています。さらに、家族などの送迎のための比較的短時間の駐車に対応するため、市営自動車駐車場において、入庫から30分間を無料にし、一般車乗降場などで掲示物を用いて利用を呼びかけています。これらの取組により、違法駐車等防止重点地域内での長時間の違法駐車はおおむね解消できているものと考えます。

次に、生駒警察署とはどのような連携を取っているのかについてですが、生駒警察署に市民からの通報や問合せがあった場合には、随時必要な対応を実施していただくとともに、生駒駅と東生駒駅については、違法駐車等防止重点地域として重点的に対策に取り組んでいただいています。また、本市と生駒警察署は共同で生駒市交通対策協議会を設置し、春と秋に行われる交通安全運動期間を中心に、連携して交通安全啓発活動を行う中で生駒駅周辺における違法駐車の防止に関する啓発も実施しています。これ以外にも、市に問合せや要望が寄せられた場合には、生駒警察署に情報の提供を行って連携に努めています。

以上です。よろしくお願いいたします。

28○吉村善明議長 梶井議員。

29○4番 梶井憲子議員 それでは、まず先に通告書の2番目の生駒駅周辺の違法駐車についての方から質問を進めさせていただきます。

交通環境改善の取組について先ほどご答弁いただいたんですけども、平成9年に生駒駅周辺が違法駐車等防止重点地域と指定されまして、それをされてから、生駒駅前の違法駐車の状況というのはよくなったのでしょうか、市の見解をお聞かせください。

30○吉村善明議長 澤井危機管理監。

31○澤井宏保危機管理監 違法駐車等防止重点地域に指定し、これに加え、生駒市市営自動車駐車場入庫から30分間無料にしたことや、駅前広場から駐車場利用に誘導したことなどで、違法駐車は一定の改善が図られていると認識しています。重点地域指定から20年以上が既に経過しております。駅前の商業施設の増加や送迎の増加などで利用状況は変化していると考えられま

すが、市営3駐車場を合わせて、毎年約37万台から39万台が無料駐車を利用しており、少なくともその分は違法駐車改善が図られているものと考えます。

32○吉村善明議長 梶井議員。

33○4番 梶井憲子議員 37万台から39万台、この全てが違法駐車の対象だったかどうかというのはちょっと疑問には思うんですけども、30分無料にされたことで以前よりも随分改善されたということは一定評価したいと思います。しかし、現状はドライバーが乗っていない違法駐車というのはほぼお見かけしないものの、ドライバーが乗ったまま5分以上駐車している違法駐車がずらりと並んでいるのが目につくんですけども、巡回指導もされているということなんですけど、指導の時間帯や頻度というのはどれくらいで実施されているんでしょうか。

34○吉村善明議長 澤井危機管理監。

35○澤井宏保危機管理監 生駒市の交通安全指導員による巡回指導は、午前8時30分から午後5時30分までの間実施しております。令和3年度は巡回139回、指導件数は3,782件となっております。令和4年度は、10月末までの集計なんですけど、巡回31回、指導件数537回となっております。

36○吉村善明議長 梶井議員。

37○4番 梶井憲子議員 令和3年度に比べて令和4年度、大変数は少ないんですけども、これはなぜでしょうか。

38○吉村善明議長 澤井危機管理監。

39○澤井宏保危機管理監 10月までの集計であることに加えて、令和2年度から3年度については、交通安全指導員が従来実施しておりました、幼保、こども園や学校で実施しております交通安全指導でありますとか、自転車指導がコロナの影響で実施できなかったということがありましたので、巡回指導の回数を増やしてまいりました。そのため、令和4年度については、これらの交通安全教室や自転車指導が逐次再開されておりますので、その分、巡回の回数が減ったという形になっております。

40○吉村善明議長 梶井議員。

41○4番 梶井憲子議員 では、令和4年度が従来の数ということですね。分かりました。今は夕方以降の混雑が大変多いようなんですけども、夕方以降の巡回指導というのはしておられないんでしょうか。

42○吉村善明議長 澤井危機管理監。

43○澤井宏保危機管理監 生駒市交通安全指導員による巡回のほか、警察署から委託を受けた、駐車監視員が放置車両の確認や確認標章の取付けなどを行っていますが、夜の時間帯の巡回は実施されておられません。

44○吉村善明議長 梶井議員。

45○4番 梶井憲子議員 夕方以降の電車の到着に合わせた帰宅のご家族のお迎えとか、あとは塾のお迎えですとか、買物のためにちよいと止めるなどが重なると、駅前は大変混雑しているようなんです。それについて対策というのは何か考えておられますでしょうか。

46○吉村善明議長 澤井危機管理監。

47○澤井宏保危機管理監 確かにご指摘のような状況になっておりますので、一般乗降場や駐車場への誘導について更に効果的な啓発を模索していきたいと考えております。

48○吉村善明議長 梶井議員。

49○4番 梶井憲子議員 その啓発の具体的な内容というのは教えていただけますでしょうか。

50○吉村善明議長 澤井危機管理監。

51○澤井宏保危機管理監 交通安全指導員による巡回時には駐車禁止区域であること、人待ちでの停車でも、駐車という形、5分以上は駐車ということになること、直ちに移動をお願いすることなどを広報車で広報しながら巡回しているという状況です。また、停車中のドライバーに向けて、一般車乗降場である、近商ストア前や北側ロータリー内の乗降場付近には、乗車場であることや市営駐車場の入庫から30分が無料であるということを知らせるための標示を設置し、駐車場の利用を促しております。

52○吉村善明議長 梶井議員。

53○4番 梶井憲子議員 啓発はされているんですが、そこに停められる方が後を絶たないということなんですけども、その止めておられる方になぜそこに止めるのかというのを何らかの形で聞き取りなどされたことはあるんでしょうか。

54○吉村善明議長 澤井危機管理監。

55○澤井宏保危機管理監 従来そういった聞き取りは実施しておりません。

56○吉村善明議長 梶井議員。

57○4番 梶井憲子議員 なぜ駐車場に入らずに路上で待つのかというのを聞き取ったこと、今までないとのことなんですけども、一度駐車している当事者の方にアンケートでも取って見たら、本当の意味の、なぜそこに止めちゃうかというのが分かるのではないかなと思うんです。やっぱり市民の思っていること、感じていることというのを聞き取る必要はあるのではないかなと思うんですが、それを調べてみるというのはいかがでしょうか。

58○吉村善明議長 澤井危機管理監。

59○澤井宏保危機管理監 停車中の車の方に移動を求めるといっじゃなくて、そこでアンケートをする、あるいは聞き取りをするとなると、更にその車を引き留めて停車を促してしまうような形になってしまいますので、ちょっと難しいかなと思います。

60○吉村善明議長 梶井議員。

61○4番 梶井憲子議員 分かりました。市営駐車場の30分以上の利用者、恐らく人待ちと思われる方の利用なんですけども、その人数とかというのはおおむね把握はできるんでしょうか。

62○吉村善明議長 澤井管理監。

63○澤井宏保危機管理監 本年10月までの実績で見ますと、生駒駅北駐車場の利用者のうち、総利用台数の約44%、ベルテラスいこま駐車場の49%、駅南駐車場で約37%の方が30分以内の無料の駐車を利用しておられます。そのうちどれぐらいが実際の人待ちなのかというのはちょっと分かりません。

64○吉村善明議長 梶井議員。

65○4番 梶井憲子議員 現在駐車場に止めずに並んでおられる方々を駐車場の方に誘導した

場合、その人待ちの方の車が止められる余裕というのは駐車場にはあるのでしょうか。

66○吉村善明議長 澤井管理監。

67○澤井宏保危機管理監 利用時間等にもよりますが、時間ごとの利用台数、入庫、出庫、実際滞在している車両数から見ますと、人待ちで利用することは十分可能な空きがあるという状況です。

68○吉村善明議長 梶井議員。

69○4番 梶井憲子議員 駐車場自体には余裕があるということなんですが、お迎えや人待ちの方が地下の駐車場を使われない一因として、やっぱり地下駐車場の一部の電話が使えないということがあると思うんです。今現在、電話の電波の状況というのはどうなって、どういう状況でしょうか。

70○吉村善明議長 澤井管理監。

71○澤井宏保危機管理監 生駒駅北地下駐車場について、使用3社のうち1社の電波が通じないという状況になっております。ベルテラスいこま駐車場と生駒駅南駐車場については、各社とも通話可能であります。

72○吉村善明議長 梶井議員。

73○4番 梶井憲子議員 大手3社のうち1社の電話が繋がらないという、その1社だけ繋がらない理由というのは何でしょうか。

74○吉村善明議長 澤井管理監。

75○澤井宏保危機管理監 この主要3キャリアのうち現在つながっている2社につきまして、1社については事業者側から設置させてほしいという申出があって通信設備が設置された。残りの2社について、市側からその後、働きかけて、1社がこれに応じて設備を設置したということになります。

76○吉村善明議長 梶井議員。

77○4番 梶井憲子議員 もう1社がそういう呼びかけに応じていただけなかったもので、つながらないまま現在に至るということでしょうか。

78○吉村善明議長 澤井管理監。

79○澤井宏保危機管理監 そういう状況になっております。

80○吉村善明議長 梶井議員。

81○4番 梶井憲子議員 生駒駅の北駐車場、地下駐車場なんですけども、駅から一番近くて利用しやすいんです。やっぱり到着した人を連絡を受けて車で外にお迎えに行くというのもあるんですけども、駐車場で待機している車の方に人が連絡をつけて、人が車の方に向かうケースもあります。いずれにしても、電話が通信可能な状態でないと、そのお迎えというのは使えないんですね。これだけ今どき個人の電話が普及している時代に、この状況ではやっぱり積極的に地下駐車場に誘導するというのには問題があるかと思うんですけども、いかがでしょうか。

82○吉村善明議長 澤井管理監。

83○澤井宏保危機管理監 議員が言われますように、それぞれ駐車場で待っているということになりますと、駅からの距離ということで、確かに北地下駐車場が一番近いということになります。ですから、ベルテラス駐車場との差、100メートルも差がないわずか数十メートルという状況です。実際そこから車を出して、駅前で乗降者を拾うとなると、出口の関係で、実はベルテラス側の方が利便性がいいと。

両者比較しますと、一長一短あるという状況です。なので、市としても北地下駐車場だけじゃなくて、ベルテラス側の駐車場についても利用を促していきたいと考えております。

84○吉村善明議長 梶井議員。

85○4番 梶井憲子議員 ベルテラス側の駐車場も私も最近ちょっと気に入って使い始めたんですけども、決して不便ではないです。でも、おおむねの今の状況では地下駐車場の方が便利だという認識の方が多いと思います。あと、やっぱりその電話が通じないと、緊急通報ができないということについては、市はどのようにお考えでしょうか。

86○吉村善明議長 澤井危機管理監。

87○澤井宏保危機管理監 生駒駅の北駐車場には係員が常駐しており、監視カメラと併用して、係員の巡視も実施しております。また、北駐車場には各5カ所の精算機があるんですけど、そこにインターホンがあって、それぞれ係員と連絡ができると。さらに、周辺通路も含めまして9カ所に非常通報ボタンが設置されているということで、構内における非常事態の発生には対応できているものと考えます。

88○吉村善明議長 梶井議員。

89○4番 梶井憲子議員 ふだんは地下2階の管理人室のようなところにおられるのかなと推測するんですが、そこでモニター等で監視しておられるのかもしれないですけど、常にモニターをじっと見て見張っておられるか、そこまで分かりませんが、車内で何か起こった場合にも、やっぱり自分から緊急通報できないということは、そこに問題があるかと思うんです。それについてはいかがでしょうか。

90○吉村善明議長 澤井管理監。

91○澤井宏保危機管理監 そういったこともありますので、巡回も併用していると。なお、係員については、モニター全面生きておりますので、何か異変があった場合には対応するという形になっております。

92○吉村善明議長 梶井議員。

93○4番 梶井憲子議員 生駒市の公共施設において、やっぱり個人の安全が確保できないということは問題じゃないかなと思うんです。後1社だけなんです。どの電話会社でもつながるように、今のこの時代ですから、整備していただくことを要望したいと思います。よろしくお願いします。

続いて、北側のモニュメント広場についてお尋ねしたいんですけども、一般車両の乗降場に入る入口がとても分かりづらくて入りにくいんですね。真ん中の島とロータリーの出口の2カ所にタクシーが待機の場所になっていまして、一見タクシー専用なのかなと思うように見えるのではないかなと思うんですけども、市はあのロータリーについてどのような見解をお持ちでしょうか。

94○吉村善明議長 澤井管理監。

95○澤井宏保危機管理監 ご指摘ありがとうございます。確かにタクシー待機場所と区別がつきづらく、一般車両の利用が少ないと感じております。現場の利用状況を確認の上、誘導表示の設置等何らかの改善策、利用促進策を考えていきたいと思っております。

96○吉村善明議長 梶井議員。

97○4番 梶井憲子議員 せっかいいロータリーがあるのにもかかわらず、利用されないというのはすごくもったいないと思うんです。誘導の表示やロータリー全体の構図の見直しも含めて改善していた

だけたらなと思うんですが、あと白線が消えかかっている分りにくいというのもあるかと思うんですが、その辺り、どうにか対策していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

98○吉村善明議長 米田部長。

99○米田尚起建設部長 白線等、安全性に関わるものについては、すぐさま調査して検討、対応していきたいと思います。

100○吉村善明議長 梶井議員。

101○4番 梶井憲子議員 是非とも早い対応をよろしくお願いします。あと、啓発についてなんですが、先ほどツイッターやホームページでの啓発をされているということなんですが、やっぱりツイッターとかホームページより、現場での啓発の方がより効果的ではないかと思っているんです。ベルテラスの北側のT字の交差点のところで、ベルテラス駐車場が30分無料というような案内の大きな看板、設置されているんですけども、文字の数が多過ぎて、その看板1枚に対して情報量が多過ぎて、ドライバーさんから見たら運転してても読めないんですよ。信号待ちで先頭車両になったときだけ最後まで辛うじて読めるという状況なので、2台目からは最後まで読めません。せっかく設置している看板なので、もう少し見やすい看板で考えていただけたらなと思います。あと、ベルテラスの1階の近商前の乗降車場にも案内あるんですけども、やっぱりドライバー目線で気がつきにくいというのもちょっと気になる場所なんですけども、それとあと30分無料を知らない人もまだまだ多いのではないかと思います。あと、何のために30分を無料にしているのかということがあまり伝わってないかもしれないと思うんですが、いかがでしょうか。

102○吉村善明議長 澤井管理監。

103○澤井宏保危機管理監 看板について1カ所で2カ所の駐車場の案内をしている関係で、確かに読みづらいと、ご指摘のような点はあるかと思えます。ですから、近商前の乗降場のところに貼ってあるもの、あれは正にご指摘のとおり、ここは駐車できませんよと、市営駐車場で30分無料ですよというのは、分かりやすく、ちゃんとドライバー側に、ちょっとわざわざオフセットして、入っていくと、目の前にぱつちり入るというような感じでしておりますので、あそこを使われたことのある方については、少なくとも周知はできているものだと考えます。その結果、年間38万台、30分無料が利用されているということで、一定の周知はできているのかなと思います。

104○吉村善明議長 梶井議員。

105○4番 梶井憲子議員 今の周知方法が効果的かどうかということを検証しながら、更に周知の方、進めていただきたいと思えます。ちなみに、この南側のロータリーにはそのような案内というのはあるのでしょうか。

106○吉村善明議長 澤井管理監。

107○澤井宏保危機管理監 生駒駅南側のロータリーの一般車乗降場に違法駐車防止重点地域であることと、市営駐車場を案内する看板を設置しております。

108○吉村善明議長 梶井議員。

109○4番 梶井憲子議員 きちんとその乗降車場を利用して、ルールを守っている人に啓発するよりも、やっぱり守ってない方への啓発の方を優先的にお願いしたいと思うんです。人待ちの車が並ぶところに看板を設置するとか、やっぱりドライバーさんに口頭で言うだけじゃなくてチラシをお渡しするな

どして、やっぱり駐車場に誘導するということに取り組んでいただきたいんですけど、いかがでしょうか。

110○吉村善明議長 澤井管理監。

111○澤井宏保危機管理監 ご指摘ありがとうございます。今後についても、一般乗降車駐車場への誘導について、より効果的な啓発の仕方、ご指摘を受けたような内容も含めまして検討していきたいと思います。

112○吉村善明議長 梶井議員。

113○4番 梶井憲子議員 是非ともよろしく願います。

続いて、2問目の2)の質問で、警察との連携についてなんですけども、市民からの苦情というのは市役所に、生駒駅周辺の駐車についての苦情は市役所にどれくらい寄せられておりますでしょうか。

114○吉村善明議長 澤井管理監。

115○澤井宏保危機管理監 今年度は1件、苦情がございました。

116○吉村善明議長 梶井議員。

117○4番 梶井憲子議員 では、生駒警察の方にはどれくらいの苦情が寄せられているのか、把握はされておりますでしょうか。

118○吉村善明議長 澤井管理監。

119○澤井宏保危機管理監 詳細な数については、その場所ごとに何件というような把握されてないので分かりかねるんですが、警察の担当者に問い合わせたところ、生駒駅周辺の駐車場、特に不法が多いと、そこだけ、生駒駅周辺のみが多いというわけではないというふうに聞いております。

120○吉村善明議長 梶井議員。

121○4番 梶井憲子議員 私、実は駅前交番の警察官の方から直接お話、聞いてきたんですけども、やはり直接交番に来られる苦情というのは多くて、その都度、警察が取締りをして、毎日のごとでたちごっこが現状とのことでした。生駒警察に苦情は少ないのかもしれませんが、交番には頻りに苦情の電話が入っているそうです。警察の業務だとは思んですけども、やっぱり駅前の取締りにお巡りさんが日々その業務に追われるということは、警察にとっても、市民にとってもよくないことだと思うんです。やっぱり市ができることというのはきっちりやっていただきたいなと思っております。今は路上で待つのが普通と考えている人が多いと思うんですけども、これからは駐車場で待つというのが当たり前のように努力が必要かなと思います。市民の意識の向上が大事です。そのための最低条件として、駐車場の空きがあること、そして電話がつながるとするのは条件として最低限必要と考えております。改善が必要だと思いますけども、何か計画はありますか。

122○吉村善明議長 澤井管理監。

123○澤井宏保危機管理監 違法駐車をなくす根本的な改善策というのは非常に難しいと考えております。30分無料の駐車場の案内や、地道ではありますが、違法駐車をなくすための啓発等を引き続き進め、ドライバーの意識の変革につなげていきたいと考えております。なお、現状といたしまして、ベルテラスいこま駐車場と南生駒駐車場が満車となることは非常に少なく、十分駐車場で人待ちをしていただくことは可能と考えられます。生駒駅北地下駐車場についても、夕方の送迎が多くなる時間帯の出入り状況から見ても、利用はその時間帯でも十分可能と考えられます。生駒駅周辺の3市営駐車場のうち、1カ所で1社のキャリアの電波が届かないのみであることを考えると、そ

の解消が違法駐車防止にどこまで効果を発揮するのか疑問であり、これにつきましては今後の検討材料としたいと考えております。以上です。

124○吉村善明議長 梶井議員。

125○4番 梶井憲子議員 このテーマの最後なんですけども、警察との連携をしっかりと取りながら、やっぱり引き続き駅前安全確保の取組をお願いしたいと思います。電話の電波状況を含めたトータル的な改善と効果的な啓発を要望して、駅前の違法駐車についての質問はこれまでとしたいと思います。

続いて、通告一つ目、市内バス路線の再編についての質問に移ってまいりたいと思います。生駒市内の各路線バスの利用状況について市はどのように把握しているかについてご答弁いただいたんですけども、奈良交通とのふだんの情報共有というのはどのようにしておられるのでしょうか。公共交通活性化協議会以外での情報共有の機会というはあるのでしょうか。

126○吉村善明議長 米田部長。

127○米田尚起建設部長 奈良交通とは、公共交通活性化協議会以外では情報共有の機会があるわけではございませんが、例えば、コロナ禍以前から、少子高齢化等の社会状況の変化により、路線バスの利用者の減少や、運転者不足に関する情報、またコロナ禍においては、更なる利用者の減少などの情報は奈良交通からは聞いておりました。

128○吉村善明議長 梶井議員。

129○4番 梶井憲子議員 コロナ禍以前から経営状況がよくないということ把握しながら、これまで再編、廃止に向かう兆候というのは、市は読み取れなかったのでしょうか。

130○吉村善明議長 米田部長。

131○米田尚起建設部長 コロナ禍におきまして、路線バス利用者の減少とか、経費削減に向けての路線バスのダイヤの効率化を実施するなどの情報は聞いていましたが、今回の再編案については突然の申入れでありまして、再編の情報は事前には聞いておりませんでした。

132○吉村善明議長 小紫市長。

133○小紫雅史市長 先ほど部長から、奈良交通と情報共有の機会が公共交通活性化協議会以外であるわけではないというような答弁がありましたけども、これは全くないということではもちろんありません。特にこの具体的な提案が奈良交通から出された後は、もちろん公式に議論するのは公共交通活性化協議会ということになりますけれども、いろんな情報の共有だったり、意見交換というようなものというのは、当然水面下でもやっていかなきゃいけない、いろいろ事務的な調整とか、事実関係の確認とか、そういうものはやっているということでございます。また、その後のご質問に関係をいたしまして、それは部長が答弁したのとほとんど同じでありますけれども、今回やはりコロナで大変だとか、最近であれば燃料費の高騰が大変だとかというようなことで、なかなかこのままだと今の現状の路線というのが相当赤字が出て経営を圧迫しているというようなこととか、いろいろ考えていかなきゃいけないことが出てくるかもしれないというようなそういうレベルのお話は当然これまでも聞いていたというのは事実だと思いますが、具体的にどこの何の路線を何本減便するとか、やめるとか、いつだとか、そういうような話というのが正式に出たのは、それは9月の公共交通活性化協議会というようなことでございますので、そこは整理をしてご理解をいただければと思います。

134○吉村善明議長 梶井議員。

135○4番 梶井憲子議員 具体的な案が出たのは9月ということで承知しました。令和2年からコロナで外出の自粛や公共交通の利用を控えるような時期がずっと続いてきたわけなんですけども、コロナ禍に入った令和2年度以降の経営状況の悪化から今回の再編案の提示となっているようなんですけども、本来ならコロナが終息して、コロナ以前の乗降者数に戻れば、再編の必要はないかと思うんですけども、それはいかがでしょうか。

136○吉村善明議長 米田部長。

137○米田尚起建設部長 奈良交通からは、かなり以前から、通勤通学利用者数の減少等で路線バスの収支状況は悪化していたと聞いておりました。奈良市や生駒市の路線バスの赤字を外国人観光客、いわゆるインバウンド効果により穴埋めして、北部地域全体で収支均衡を保っていた。しかし、コロナ禍においてインバウンド効果が消滅したため、一気にバランスが崩れ、大きな赤字を計上したと聞いております。また、コロナ終息後においても、新しい生活様式への変容等により、移動ニーズが縮小し、コロナ禍前までの回復は見込めない厳しい状況で推移する見込みであると聞いております。

138○吉村善明議長 梶井議員。

139○4番 梶井憲子議員 これは何パーセントぐらいまで戻れば、再編の必要はないとかいうのは、数字があれば、お答えいただきたいです。

140○吉村善明議長 米田部長。

141○米田尚起建設部長 数字的に表すのは難しいかと思いますが、奈良交通から聞いておりますのは、あくまでも収支均衡になることを考えていると聞いております。

142○吉村善明議長 小紫市長。

143○小紫雅史市長 その路線を見直す、見直さないという判断はすごく難しく、当然生駒市内の路線だけじゃなくて、今も部長から答弁したように、いわゆる北和地域だったりとか、もう少し大きな範囲で見たときの収支均衡なり、経営的な観点を見て判断をしていかれるということだというふうに思います。1回目の答弁で部長からもありましたように、やはり生駒市の路線バスの利用客につきましては、平成2年をピークとして減少していて、生駒市の場合はまだインバウンドの観光客もそんなに大きくないということもあると思うんですけど、令和元年、コロナの前の、直前、令和元年とかの数字もやはり赤字を計上していると。ただ、その時期は非常にインバウンドが好調で北和全体で見ると、観光客なんかの収益もあるので、その分を差し引いても、収支がある程度取れていたということだと思いますが、生駒市の路線については、やはりその赤字というものがコロナの前から一定あったというふうな状況だと聞いています。ただ、我々としても、やはりコロナの影響が非常に大きいけれど、今も第8波がかなり感染者、出ておりますけれども、ある程度コロナ落ち着いてきてインバウンドも再開をしたときに、やはり北和全体で観光客も今戻ってきていますし、そういうようなところをしっかりと見極めてからご判断いただくということが適切なんじゃないでしょうかというようなことは当然申し上げておきます。そういうような中で、あまり性急に、具体的な一つの提案は9月に出てきたんですけども、このままだと当然我々、飲めない提案でございますので、内容の見直しもそうですし、時期的なものにつきましても、コロナがある程度落ち着いてきたときの収支がどれだけ戻ってくるのかとか、1回目の答弁にありましたよ

うな、いろんな国の施策、そんなものもしっかり見極めて、それを内容も踏まえて、今回、いただいた提案内容を見直していただくようなことだとか、時期をもう少し後ろにずらしていただいたり、丁寧な検討をしていただくようなことはずっと奈良交通に申し入れているというようなことをご理解ください。

最後に一つ付け加えるとすると、新しい生活様式というのがあって、テレワーク等が一定進むことでバスの利用客が減るんじゃないかとか、そういう効果、影響は見ていかなきゃいけないと思っています。ただ、テレワークも今、逆に少しやっていた人がまたやっぱり通常の通勤に戻ったなという影響も結構ありますし、その辺りは継続的にテレワークする方がどのぐらい残り、普通の通勤に戻る人がどのぐらいいるのかというようなことも含めて、コロナがある程度終息してきたときにしっかり分析して、その影響は見極めていくというのは当然奈良交通さんもされるでしょうし、我々もその辺りを見ながら、奈良交通と引き続き意見交換、協議をしていきたいというふうに思っています。

144○吉村善明議長 梶井議員。

145○4番 梶井憲子議員 先ほど米田部長の答弁の中に、今回の再編案は突然の申入れだったというような答弁があったんですけども、3月に奈良交通から再編の申入れがあって、6月30日の公共交通活性化協議会を経て、8月27日に自治会役員、奈良交通さんの方から説明会をされたわけなんですけども、それまでの間にどのような動きがあったのかというのを教えていただけますか。

146○吉村善明議長 米田部長。

147○米田尚起建設部長 今回、奈良交通から市内路線バスネットワーク維持に向けた協議の申入れで示された路線廃止及び再編案は、令和2年度に策定した生駒市地域公共交通計画の前提となる本市の地域公共交通の位置付けや役割、公共交通ネットワークに大きな影響を与えるものでありますから、奈良交通に対して何とか現状維持できないかと要請を行いました。奈良交通からは、コロナ禍の影響や昨今の利用者数の減少などの社会情勢から、このままの形で市内の路線バスを維持していくことは難しいとの話でありました。これらの状況を踏まえて、市内の公共交通の様々な課題を検討する生駒市地域公共交通活性化協議会において、市民の利便性やまちづくりの影響をできるだけ小さくできるよう、奈良交通の再編案等に対する対応案を検討していくこととしております。

まず、6月30日に開催した第1回生駒市地域公共交通活性化協議会において、協議会の委員でもある奈良交通から今回の申入れに至った経緯等について説明がありました。その中で、他の委員からは、「路線バスは地域にとって必要であり、利用しないと運行がなくなってしまう。利用者自身が路線バスに関心を持つ必要がある」、また「協議会で判断するには対象系統の利用者数とルート図を示した方がよい」などの意見がありました。その後、7月の初めに市から自治連合会長への説明、7月末に富雄庄田線、8月に入って北田原線、高の原高山線、月末にひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線の沿線の自治会の役員等へ奈良交通から再編案等についての説明がなされたという状況になっております。

148○吉村善明議長 梶井議員。

149○4番 梶井憲子議員 何も知らなかったわけではなく、そういう経緯があったということは分かったんですが、地域別にアンケートを行われたんですけども、そのバスの利用状況や市民の意向、意見を再編案に反映させるために実施されたというふうに私は認識しています。一部の方から、アンケー

トは市のアリバイづくりじゃないのなどと言われているようなことも耳にしているんですけども、8月27日、奈良交通が北部地域の各自治会役員に説明会を行ったときに私も同席させていただいたんですけども、自治会の方から住民に説明会を開催してほしい、アンケートも行ってほしいとの意見もあって、私も市と奈良交通に対して、住民の声をやっぱりしっかりと聞いてほしい、納得できる説明をしてほしいというふう要望もさせていただきました。そこは早急にお答えをいただいて、10月1日付で各自治会へのアンケートというのをされましたので、そこはもう一定評価したいと思っております。このアンケートについて、市は何のために行ったのか、目的は先ほど言いましたように、市民の意向、意見を再編案に反映させるためということによろしいでしょうか。

150○吉村善明議長 米田部長。

151○米田尚起建設部長 そのとおりでございます。

152○吉村善明議長 梶井議員。

153○4番 梶井憲子議員 今、アンケート、集計の途中かと思うんですけども、回収された数やどのような声が多いなど、ざっくりでいいので分かればお聞かせいただきたいのですが、いかがでしょうか。

154○吉村善明議長 米田部長。

155○米田尚起建設部長 現在作業中ではありますが、速報値といたしまして、約7,300枚を配布して、約4,000枚近くの回答を得ております。回答率としては約53%であります。アンケートの中身の主な自由意見では、通勤通学時間帯は残してほしい、減便してでもいいから残してほしいや、廃止するなら代替手段を考えてほしいなどの意見が多いという状況と聞いております。

156○吉村善明議長 梶井議員。

157○4番 梶井憲子議員 せっかく取ったアンケートですので、皆さんの声をしっかりと奈良交通の方にもお伝えいただいて、市民の意見を反映させた結果につながるよう取り組んでいただきたいと思っております。今後の協議のスケジュールなんですけども、今後はどのようなスケジュールでこの再編の話は進んでいくのでしょうか。

158○吉村善明議長 米田部長。

159○米田尚起建設部長 今月の15日に第3回の生駒市地域公共交通活性化協議会の開催を予定しております。その中でアンケートの調査結果の報告や今後の対応方針案等について協議をする予定となっております。

160○吉村善明議長 梶井議員。

161○4番 梶井憲子議員 一般的な減便と、特にそのニュータウン線については、減便のほか、朝と夕方、東生駒止めの案が、生駒駅まで行かずに東生駒で止めるというような案も出ているようなんですけども、住民の民意を踏まえた協議を是非とも行っていただきたいと思っています。12月15日の協議会を最終結論、そこで最終結論を出すのではなく、令和5年度からの国の新しい制度、今、策定中ということなんですけども、その制度の活用も視野に入れながら、継続した審議として取り扱うべきだと考えるんですけども、いかがでしょうか。

162○吉村善明議長 米田部長。

163○米田尚起建設部長 現在の奈良交通の提案におきましては、令和5年4月から実施予定の路線もあると聞いておりますので、15日の協議会では、対応方針案等について一定の協議を

行う必要があると認識しております。しかしながら、奈良交通には国の支援制度等もあることから、再編案等の実施時期は慎重に判断してほしいと要望していくとともに、引き続き協議会において審議していきたいと考えております。

164○吉村善明議長 梶井議員。

165○4番 梶井憲子議員 やっぱり現状維持というのを望む声が多数だと思います。今の路線を変更することなく運行してほしいという市民の思いにできるだけ寄り添っていただきたいと思います。バス路線に係る地域の住民へ通達した当初、こういう再編案が出ています。それを市民に知らせた当初なんですが、いきなり路線廃止案の提示に住民の方々は、特にご高齢の方は情報がもう錯綜して大混乱になっていました。案が示されたということについて、イコール再編される、もう廃止が決まると思い込んだ方が非常に多かったように思います。当初は生駒市と奈良交通が一緒になって、このバスを廃止しようとしているかのような印象を持たれた住民が多かったように思います。いまだに、もうなくなるんやねって誤解している市民もたくさんおられます。自治会や市民への説明やお知らせの仕方なんですけども、もう少し丁寧に順序立ててすべきだったのではないかなと思うんですが、このような混乱の事態になったことについてはどのようにお考えでしょうか。

166○吉村善明議長 米田部長。

167○米田尚起建設部長 奈良交通からの市内バスネットワーク維持に向けた協議の申入れは市民の生活に大きな影響を及ぼすことから、何とか現状維持できないか、奈良交通と協議を行いました。このままの形で市内の路線バスを維持していくことは難しいとの回答であったことから、生駒市地域公共交通活性化協議会において、市民の利便性やまちづくりの影響をできるだけ小さくできるよう、奈良交通の再編案等に対する対応案等を検討していくこととしました。そして奈良交通からの沿線自治会役員等への再編案等の説明とともに、この方針についても説明して、アンケート調査実施時においても、文書を配布しましたが、市民にうまく伝わらず、情報が錯綜してしまったと考えております。

168○吉村善明議長 小紫市長。

169○小紫雅史市長 情報の発信の仕方が非常に難しかったというのがあります。部長が申し上げたように、それはもうその現状維持でいってくれということをお願いしたんだけど、やはり非常に厳しい状況だということで、公共交通活性化協議会に議案としてきちんと提案したいところを我々、もちろん止めるわけにもいきませんので、それは正式に9月に載せていただいたと。6月には議題にはなっていたようですが、9月に正式に具体的な提案を出していただいたということでございます。その後、先ほども少しありましたが、アンケートの取り方もすごく難しく、これというのはまずは奈良交通さんの話でありますけれども、我々実際にこのままじゃあまりにも厳しいし、無理だということはお伝えもしていますし、時期ももうちょっと見直してくれないのと、今状況が変わっているよねと、コロナも国の動きも変わっているよねという話もしているんですが、それでも提案はするということでしたので、提案は9月にしたということでございますが、当然先ほど申し上げているように、決してアリバイづくりでも何でもありませんし、市としてはこのままでは無理だという意向をちゃんと伝えた上で、ただ市民の皆様やはりお声をきちんと取った上で、それを奈良交通にお伝えをして、中身をもう一度再考していただくとか、時期を考え直していただくというためにはやはり我々だけではなくて、利用されている方を中心に市民

のお声をということで。自治会の方も自治連合会長さんが、この公共交通活性化協議会の委員でもありますので、自治会に広くこれは周知しなきゃいけない問題だということで、そちらの方でのルートでも情報を出すということで強いご意向もありましたし、そういうような形で出したと。ご指摘あったように、当然そうなると、これは何か最終的なパブリックコメントみたいなもので、ほぼ方向性、決まっているというようなことなのかとか、先ほどのように、我々としては心外ですけども、アリバイづくりのために市が何かやっているのかというようなご意見があるだろう、ある可能性があるというのは我々も思ったんですが、やはり市民のご意見をきちんと聞いて、それを奈良交通にぶつけていくというプロセスは要ということで、アンケートを取らせていただいています。アンケートの柱上げのところにも、少し丁寧にそういう趣旨はお書きしているつもりではあるんですが、さっきの駐車場の話と一緒にかもしれませんが、文字が、文字数があるので、なかなかそこをしっかりと読んでいただけない方には、これはもう何かこういこといいですよというアンケートに勘違いをされてしまったということが結構あるというようなことは、そこは我々も反省をしなきゃいけないというふうに思います。いずれにせよ、大変難しい話で、もう学校の再編とか、いろんな話の中でも、こういう感じで検討していきますみたいなことをしたら、その提案というか、検討をこれからしますというのがもうこういう方向でいいですよというふうに変換されたり、一部あえてそういうふう勘違いされた方が、また他の人に口コミでお話するとか、そういうところは非常に情報発信の難しさも感じておりますが、それでもなお今回は市民の皆さんのご意見をきちんといただくかなきゃいけないということで、これは市の名前でやっていますけれども、奈良交通と連名でやるとかいろんなやり方があったのかもしれませんが、そういう決まっているんじゃないですよと、皆さんの声をいただいて、これからの議論に供するんですという前提の注意書きを少し添えてアンケートはさせていただきましたつもりです。ただ、しっかりその辺りが伝わっていないという現状が、これは議員おっしゃるように、ありますので、しっかりと我々もタイミングをうまく捉えまして、私もいろんなところでお話をしたり、ネットで発信したりはしていますけれども、引き続きしっかりその辺りの発信をしていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

170○吉村善明議長 梶井議員。

171○4番 梶井憲子議員 先月、行った市民懇談会でも、関係する地域の自治会長さんが複数名、来られまして、住民の不安が大きくなって、やっぱりそれが怒りに変わって、その矛先が自治会長さんに行ってしまうと。自治会長に苦情の電話がたくさん入って困っているというようなお話もお聞きしました。やっぱり手続き上、知らせればいいというだけじゃなくて、知らされる側の立場に立って、本当に今、市長もおっしゃっていただいたんですけども、今後はもっと理解しやすく丁寧な対応をしていただきたいと思います。やっぱり文字、多かったと思うんです。最後まで文字が多過ぎると、最初の見出しで、もう頭がいっぱいで最後まできちんと読めないということも大いにあるかと思っておりますので、今回のような場合は、事業者の考えと市の考えは別ですよって、市の基本方針をきっちりと示していただけたらよかったのではないかなというふうに思います。今後、市民が不安に陥るような発信の仕方というのは改善していただきたいと思います。よろしくお願いします。

続いて、二つ目の質問で、これから進む人口減少に対して、公共交通をどのように維持していくのか、市の考えはという質問について進めていきたいと思っております。

この度、バスの事業者の経営難から、この再編案というのが出されたわけなんですけども、今後のバ

ス路線の維持の見通しというのはどのようになっていますか。

172○吉村善明議長 米田部長。

173○米田尚起建設部長 今回の奈良交通からの路線バスネットワーク維持に向けた協議の申入れによって示された路線の廃止、再編案は本市に限ったものだけではなくて、全国各地で起こっている社会問題であり、一朝一夕で解決できるものではないと考えております。今でも危機的な状況にある市内の公共交通事業者に対して、令和3年には事業継続支援金、令和4年には電力高騰対策支援金などの財政的な支援を行っていますし、これからも奈良交通には市からも財政支援を行うことで提案内容の見直しや時期の延長、また減便になるとしても、一定の維持をしていくことなどを求めていると考えております。現在、市内の公共交通の様々な課題を検討する生駒市地域公共交通活性化協議会において、アンケート調査の実施等利用者の声を丁寧に聞き取りながら、市民の利便性やまちづくりへの影響をできるだけ小さくできるよう、奈良交通の提案に対する対応案を検討しており、引き続き奈良交通に対して提案内容の再検討を要望していきたいと考えております。

174○吉村善明議長 梶井議員。

175○4番 梶井憲子議員 是非引き続きお願いしたいんですが、市としてこれまでに住民にバスの利用を促すような取組というのは何かされたことがあるんでしょうか。

176○吉村善明議長 米田部長。

177○米田尚起建設部長 コロナ禍の昨年になるんですけども、9月の広報いこまちにおいて、公共交通の役割や必要性について考えてもらい、地域で公共交通を育ててほしいとのメッセージを込めた特集、また10月には公共交通の大切さを理解して、積極的な利用をお願いするアピール文をホームページに掲載しております。また、令和2年度には、いこまちTVにより「徒歩で登れ！暗峠」の中でコミバスの利用促進をユーチューブで発信しております。今後は、例えば公共交通事業者、市民、市の協働によるイベント等などを通して、ふだん公共交通を利用していない市民等に気軽に楽しく公共交通を利用してもらうようなきっかけづくりを行うなど様々な検討をしていきたいと考えております。

178○吉村善明議長 梶井議員。

179○4番 梶井憲子議員 是非ともそのような取組も引き続きお願いしたいと思います。生駒市内の各路線の赤字の度合いなんですけども、今の状態を現状維持しようと思ったら、具体的にあと何人ぐらいバスの利用者があれば、採算が合うのかとかそういう具体的な数字というのは示していただくことはできますでしょうか。

180○吉村善明議長 米田部長。

181○米田尚起建設部長 奈良交通の3年度の実績では、市内路線バスの損益は約9,000万円程度の赤字だと聞いております。具体的に何人乗れば採算が合うかは奈良交通からの聞き取りをしたところ、今回再編案等の対象路線である富雄庄田線であれば、1便当たり約27人の利用人数で収支均衡となると。現行は約それに対して15人しか乗っていないと。ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線であれば1便当たり約26人の利用者数で収支均衡となるが、現行は約18人と聞いております。

182○吉村善明議長 梶井議員。

183○4番 梶井憲子議員 やっぱ現状維持というのはかなりハードルが高い数字かなと思うんですけども、ここを何とか、収支均衡と言われると、なかなか無理も言えないところもあるかと思うんですが、減便すれば、あと何人乗れば、このままずっと存続できるよという数字が今後の協議の中でもし分かればお示しただければ、地域で何らかの取組をして、その数字をクリアできるような努力もできるのかなと思いますので、今後の協議の中でまたそういった数字も、具体的な数字が分かればお示しただければと思います。

あと、あすか野センターのバス停でたくさんの小学生がバスの利用をするのに並んでいるのを見かけるんですけども、通学にバスを利用している小学生がいらっしゃるんですが、再編での減便というのをちょっと心配しているんです。現状どれくらいの児童が通学にバスを利用しているのか、分かればお願いします。

184○吉村善明議長 奥田教育こども部長。

185○奥田吉伸教育こども部長 まず、西白庭台からあすか野センターにということで、児童が乗っているということでございます。あすか野センターに、子どもさんたちがお待ちいただいているというふうなお話になっておりますね。まず、西白庭台につきましては、指定校変更で本来の学校が生駒台小学校であります、調整区域となっておりますので、西白庭台からあすか野小学校に通っていただいているというのが前提となっております。そのお子様につきましては166人、これ5月1日現在の数字ではございますが、166人の方があすか野小学校に行っているということでございます。その中でバスをご利用いただいていると、定期を買っていただいている方が今現在115人、定期を買っていないが、雨のときに乗ったりというお子さんですね、そういった方が20人いらっしゃる。合わせて135人の利用があるということでございます。

186○吉村善明議長 梶井議員。

187○4番 梶井憲子議員 非常にたくさん子どもたちがバスに乗って毎日通学しているんですけども、その通学バスの便数というのは、朝と下校の時間、どれくらい走っているのか、把握できていれば、お願いします。

188○吉村善明議長 奥田部長。

189○奥田吉伸教育こども部長 行きしなと帰りしなという言い方で申し訳ないですけども、登校時のバス、西白庭台2丁目の方から乗っていただくような便が7時12分のバス、こちらが出ております。ただ、乗員数、多いということで増便をかけていただいております。いわゆる同じ時間に2台が走るという状況ですね。こういったもので対応していただいております。帰りにつきましては、帰りの下校時間にも関わってまいりますけれども、15時1分と16時1分のバスになっております。そのときも15時、16時、どちらかいずれか多い方、子どもさんの下校時間が多い方に1便増便をしていただいているという状況でございます。

190○吉村善明議長 梶井議員。

191○4番 梶井憲子議員 やっぱ減便によって通学に影響が出ないように配慮した調整をいただきたいんですけども、そういったことは奈良交通との交渉の中に含まれているんでしょうか。

192○吉村善明議長 米田部長。

193○米田尚起建設部長 減便により通学に影響しないような協議なんですけど、今現在はまだそこまでは達しておりません。

194○吉村善明議長 梶井議員。

195○4番 梶井憲子議員 やっぱり今後の協議の中でそういったことも考慮しながら、話し合い、進めていただければと思います。あと、バス1本乗り遅れたら、児童が長い道のり1人で歩いて登校しないといけないとか、そういうことがあっては本当にならないと思っております。くれぐれもよろしくお願いいたします。

196○吉村善明議長 小紫市長。

197○小紫雅史市長 今、部長、そう申し上げましたけれども、高山の富雄庄田線も同じような問題がありますので、当然その一個一個すごく具体的に議論が進んでいるかというのはありますけど、当然そういう通勤の足としてというのがありますけど、通学の足という、特に小さなお子さんの通学の足というのは、これはある意味、数はそんなに、富雄庄田線はそんな数はないんですけど、やはりその数は少なくとももう不可欠な足だということになりますので、その辺りにつきまちはしっかりと奈良交通の方にお伝えをして、私もそういう視点でメッセージを出していると思っておりますので、当然そういうことというのは議論していく検討の要素の一つ、大切な要素の一つでございますし、これから一般的な議論は当然してはいますが、特にその通学という視点に更に焦点を当てての具体的な議論をこれからしっかりとやっていくというのは当然のことだと思います。

198○吉村善明議長 梶井議員。

199○4番 梶井憲子議員 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。今後その人口の減少によって路線バスというのは、いずれまた維持困難になるのではないかとというのが心配なんですけども、その人口減少に対する何か対策というのは、バス路線の対策、何か考えておられますでしょうか。

200○吉村善明議長 米田部長。

201○米田尚起建設部長 少子高齢化の進展や生産年齢人口が減少する中で、既存の公共交通サービスを持続的に維持するためには、行政や交通事業者だけではなく、市民や地元企業等、生駒市に関係する全ての方々が三位一体で取り組むことが必要になってくると考えております。そのために市民等に公共交通に関する分かりやすい情報提供や、公共交通を利用することのメリット等を発信することで、生駒市の公共交通サービスを自分たちで支える、守る、利用するという意識を醸成し、利用を喚起するための施策検討や体制構築を図ることが必要と考えております。

202○吉村善明議長 梶井議員。

203○4番 梶井憲子議員 最初に答弁もあったんですけども、令和5年度に全国のローカルバスを始めとする支援をする国の新しい制度が検討されているとのことで、大いにそちらに期待をしたいんですけども、市としても事業者への助成だけでなく、住民が乗りたくなるような、バスに乗って出かけたなとか、バスに乗りたいたいと思うような取組を進めてほしいと思っています。それは要望しております。地域ごとに状況は違うので一律にというわけにもいかないかもしれないんですけども、自治会や地域ごとに回数券を発行するなどの取組というのは可能なんでしょうか。独自に取り組もうとする自治会に対して、市が相談に乗ったり、何かしらの支援をしたりすることというのは検討していただきたいんですが、その辺りはいかがでしょうか。

204○吉村善明議長 米田部長。

205○米田尚起建設部長 現在奈良交通からは回数券の発行はしていないとは聞いておりますけども、利用促進に向けて奈良交通に相談や要望をしていくことは可能だと思います。それと市も利用促進に向けて地域とともに取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

206○吉村善明議長 梶井議員。

207○4番 梶井憲子議員 市に頼ってばかりではなく、やっぱり地域の住民も何らかの取組をしていかないとけないのではないかと私は考えています。1人でも多くの人に乗ろうかなという気になるように取り組んでいきたいと思っておりますので、市もご協力をお願いします。

あと、奈良県の方から奈良交通に対して多額の補助金が出されているというようなことなんですけども、奈良県が奈良交通に出している補助金のうち、そのうち生駒市には幾らか充てられているんでしょうか。

208○吉村善明議長 米田部長。

209○米田尚起建設部長 現在生駒市内を運行している奈良交通の路線バスにおいては、県の補助金というのは採択要件に合致しないことから、補助金は一切出ておりません。

210○吉村善明議長 梶井議員。

211○4番 梶井憲子議員 大変残念と言うか、市が頑張るしかないのかなというところで、ちょっと残念に思います。県に対しては、今後は日本維新の会奈良県議団を通じて要望の方を続けてまいりたいと思っています。

生駒市は、交通弱者や市民の足をなくして見捨てるというようなことは絶対ないと信じております。しかし、財源には限りがありますので、地域住民がまずバスに乗るといふ協力が必要かと思っております。バスに乗るきっかけづくりの仕掛けが必要と思っておりますので、そこは担当の部署だけではなくて、まちづくりに関わる様々な部署を巻き込んで施策の方を打ち出していきたいなと、これは要望でございます。また、住民の人数が少なくなって、やっぱり存続が難しくなっていく路線というのはあるかと思うんですが、冒頭の答弁にありましたように、市民の活動の機会の保障ということで、活動機会の保障ということで公共交通サービスの提供による市民の活動機会の保障、まちづくりと連携した公共交通サービスの提供、そして市民、地元企業、行政等の協働による公共交通サービスの充実と定めている三つの基本方針に従って、今後も市民の生活の足がなくなるなんていうことはないということをお約束いただきたいんですけども、市長、いかがでしょうか。

212○吉村善明議長 小紫市長。

213○小紫雅史市長 今、梶井議員おっしゃったように、先ほどの三つの活動、市民の活動機会の保障でありましたり、まちづくりと連携した公共交通サービスの提供、あとは正に三位一体、市民、地元企業、行政、そしてバス会社そのものもそうですけども、連携をしたサービスの充実、これにつきましては、正に基本方針としてしっかりとやっていきたい。その結果として、市民が通学、通勤で使う、こういうバスといった移動手段がなくなるということがないようにしっかりと取り組んでいくということはここで約束をさせていただきたいと思っております。あすか野の地域におかれましては、この話が出たときに非常にいろんな不安もおありだったと思っておりますけれども、私は非常に感動したのは、やはりその地元のバス停のところに、こういう話あるけど、公共交通、しっかり僕らも乗ろうよみたいな、ちょっと私、詳細な文

言、分からないけど、そういう趣旨のことを掲示していただいて、やっていただいたということは我々大変心強かったというふうに思います。市も今回予算の中に燃料高騰分を補填するための公共交通事業者に対するそういう予算をかなり大きな額を入れております。これによってこういう話も含めて、交通事業者、奈良交通も含めて前向きに今出している提案ではなくて、もう少し中身をしっかりと見直そうということであったり、時期をもう少ししっかり考えてからというような議論に今、前向きに乗っていただいているということだけはお伝えをしたいと思いますけれども、生駒市だけが汗をかいたりお金を出したりしても、一時しのぎにはなっても、やはり持続可能なこういう公共交通という話にはつながらないと私は思っていますので、市も本気で汗をかくと同時に、事業者にもしっかりと企業経営の努力をやっていただいたり、様々な乗客が増えるためのサービスの改善、こういうものもやっていただきたいということ。そして何より先ほど申し上げたように、地域の住民の方がどういうふうにしたらバスに乗るのか、例えば自治会で回数券みたいな具体的なお話もいただきましたけれども、何か出かけたくなるような機会とかイベントづくりみたいなところのご要望もありましたけど、それも市でも考えますが、逆に地元の皆様にも、こんなんやったら、バス乗るかもしらんなというようなお話もいただいて、いい形でこの大変大きな課題と言うか、ピンチと言えばピンチの状況でありますけれども、今後の持続可能な公共交通の発展に向けて事業者と行政と、そして地元の市民、地元企業の皆さんが三位一体で取り組んでいくということで、市も全力で対応していくことをお約束させていただきたいと思います。ありがとうございました。

214○吉村善明議長 梶井議員。

215○4番 梶井憲子議員 最後になるんですけども、今日もたくさんの方々の方が傍聴に来られています。やっぱり市民が安心して暮らせるように、この公共交通についても、今後しっかりと協議を進めて取り組んでいただきますようお願いしたいと思います。皆さんの思いがしっかりと届いた結論が出るように期待しております。

これで一般質問を終わります。